



2024年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.6 刈取り & 搬入編

待ちに待った収穫の時期となりました。9月に入っても暑い日が続きましたが、生産者さんは暑さに負けず順調に刈取りを進めています。刈り取られた日本晴は、次々とカントリーに運ばれていきます。

【撮影日：2024年9月17、26日、10月1日】

9月は、コンバインで刈取り作業をする生産者さんの姿が蒲生地区のあちらこちらで見られました。

日本晴は9月いっぱいまで刈取りを終える方が多く、10月に入ると輸出用米の刈取りが始まり、10月半ばにはほとんどの生産者さんが刈取りを終える予定です。

収穫された籾（もみ）は、900kg 入る**フレキシブル・コンテナ（フレコン）**に詰められ、カントリーエレベーターへ搬入されます。搬入された籾は、**トラックスケール**で計量後カントリー内に流し込まれ、乾燥機へと送られます。乾燥作業は、職員が24時間体制で交代し、均一に乾燥されるように調整しながら行います。乾燥後は、貯蔵され出荷前に籾すりして出荷されます。



フレコン搬入の様子

カントリー内へ

トラックスケールで
計量後、カントリー内へ



小学校の
稲刈り体験の様子



コンバインでの
刈取りを見学



蒲生地区にある3つの小学校では、食農教育の一環として、学校近くの田んぼで毎年春に田植えをして秋に稲刈りをします。今年も晴天の下、無事稲刈りを行うことができました。

各地域の生産者の方やJA職員が協力して小学生に教え、子どもたちは鎌で1株ずつ刈り取ったり、藁で稲を縛る難しい作業を積極的に行っていました。

最後はコンバインでの刈取りを見学します。手で刈ると時間がかかっていた作業が、コンバインならあっという間の様子に

子どもたちは驚いていました。

子どもたちには、田植えから稲刈りまでの一連の学習を通じて、食や農業の大切さ、楽しさや大変さを感じてもらいたいです。